

断念・先送りは「やむなし」

1 「小水力発電事業」は断念！

町長 本事業は、県補助3分の2、事業費450万円。6月補正で計上したものの、8月の大雨で大堰にも相当量の土砂が流入し、予定していた底部に埋設する「円筒スクリーン型」の発電方式が機能するかが問題となった。専門家からは、せき止

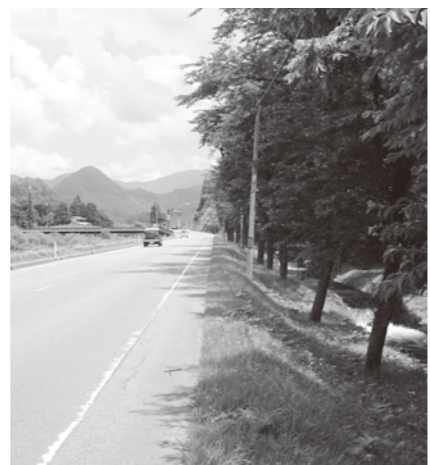
6月議会で補正を議決した大堰上流での「小水力発電事業」は、10月29日に町長から中止の説明があった。加えて、12月26日には、12月議会でPCB検出により追加補正を議決したばかりの町道焼山線「蟬畑橋補修工事」を入札不調により、予算を精査した上で平成31年度に先送りしたいとの方針が示され、全員で協議した。

町長 内部での情報共有が不十分だったため、途中経過もなくこのよ

めて落差を利用する「上掛け水車型」の発電方式が新たに提案され、当初の想定と大きく異なる状況となった。大堰をせき止めることとは、土砂が堆積するなど関係者に多大な迷惑を掛けることから、本事業を断念せざるを得ないと考えている。

議員 6月議会で議決した事業であり、ただちに事業に着手すれば、11月には点灯すると考えていた。8月の豪雨前に想定して事業を進めておけばこう

た。理由は全社共通で「本工事で使用する部材（鋼部材の補修に使用する高力ボルト）の工期内納入が不可能」というもの。実情を確認すると「少量の取引でも6か月程度を要している」とのことであり、2020東京オリンピック関連事業等に鋼材が集中していることが主な要因と考える。



期待した明かりは灯らず

2 「蟬畑橋補修工事」は先送り！

町長 12月21日の入札予定だったが、全指名業者から辞退届が提出され、入札不調となっ

うな形で報告する事態となり大変申し訳ない。座長（議長） この度の8月豪雨は想像以上の影響があり、想定したはずの方式も期待した発電効果が得られないとの判断したものだと思う。今後はこうした事態が生じないようにしっかりと対応して欲しい。

納期短縮の見込みがなく、本工事の年度内完了は極めて困難なため、平成31年度に工事を先送りし、精査した上で予算内示したい。

議員 部材提供の見込みが立たないならば方がないとは思いますが、通行に支障はないのか。担当 危険度判定は5段階中の「2」、特定部材では「3」となり、当面、橋



補修が待たれる蟬畑橋

議員 単なる農道ではなく災害時には大事な橋であり、早急な対応を願いたい。

町長 PCBでは丁寧な対応が求められる。新年度は早期に発注し、農繁期にはできるだけ工事を外したい。

座長（議長） 再び延びることが心配される。しっかりと確認して進めて欲しい。



後列左より 早坂憲明議員 高橋浩樹議員 沼澤道也議員 中村忠行議員 高橋芳夫議員
前列左より 栗田保則議員 寒河江宏一副議長 柴田清正議長 矢口政一議員 須藤典夫議員



新年のごあいさつ 「来る次代を町民とともに拓く」

新年あけましておめでとうございます。厳しい冬を迎え、大変なご苦勞をされている方も多いと思いますが、ご家族の皆様共々、希望を胸に新春を迎えられたことと慶び申し上げます。

昨年のは漢字は「災」。西日本豪雨に象徴される豪雨災害だけでなく、北海道胆振東部地震など、各地で多くの方が被災され、甚大な被害が生じました。

我が町でも、八月に襲った二度の豪雨災害は、関係者の適切な対応もあり、幸いにして人的被害は生じなかったものの、経験したことのない大きな爪痕を残し、大変なご苦勞をされた方も多かったと思います。

特に農地被害が甚大であったことから、町議会もその痛みを少しでも和らげ、農業への意欲が減退しないよう、議員一九となり町補助率の嵩上げを求めたところ、町長の英断により心ある財政支援が実現したことで、復旧が一層進んだものと思います。

平成の時代も残り三ヶ月。四月二十一日は任期満了による町議会議員選挙となりますが、今以上に「意欲」と「見識」のある議員集団となって、時代の転換点「亥年」に始まる新しい時代を拓く力となっていく覚悟であります。

結びに、皆様が無事で明るく暮らし、地域や組織、更には金山町が次代にて輝けるスタートの一年になるよう心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とします。

平成三十一年一月吉日

金山町議会議長 柴田清正